

4 全体会議

(1) 石原慎太郎 東京都知事 あいさつ

会議参加の皆さん、二日間の短い日程にも関わらず多岐に渡る課題について議論いただきまして本当に有難うございました。

今地球を襲っているこの異常気象というものは、色々な形で露出しておりますけれども、私達はやはり、人間の存在の舞台でありますこの地球を守るために、できるだけの努力を今しなければ間に合わないんじゃないかと思っております。昨年ニューヨークで行われました、また来年ソウルで行われます、いわゆる地方自治体のリーダー達のサミットではなくて、そういう人達に、色々なノウハウを与える専門家の皆さんに今回お集りいただきまして、具体的に何を効果を上げていくか、有効にことを進めていくかについてご議論いただきましたが、これは来年のソウルの会議に反映されると思いますし、また、来年行われますコペンハーゲンの国の代表によります京都議定書の見直し、その更新、そういった積極的な話題について有効な影響を与えるはずであります。また、先程トロントの市長とも話しましたが、是非そのコペンハーゲンの会議にこの C40 の代表が出向きまして、どうも動きの鈍い各国の代表を突き上げて人類の将来のために、大都市の主張する運動を積極的に展開し支持をさせ、私達、首長としての責任を果たしていきたいと思っております。

東京は東京なりに今までも努力して参りました。これからもしていきますが、やはり世界中の皆さんの知恵を出し合って、その知恵をさらにお借りして、日本の首都であります東京でこの国の環境問題をリードする役割を果たしていきたいと思っております。今回は本当に有難うございました。ご苦労様でした。



発言する石原東京都知事

(2) 各セッションからの報告(概要)

各セッションの先行事例の発表や議論の状況について各セッションの座長・共同座長から報告を行い、今後取組む共同行動を確認した。

■ セッション1 (ローソン・オーツ トロント市環境局長)

持続可能な低炭素社会を実現するため、都市の温度上昇、ヒート・アイランドへの対応策を検討した。この結果、屋上緑化、植樹・植林などの緑化促進、自然への「調和」を主眼とした住宅等の改修、市民一人ひとり自らが温暖化対策に取組む機運の醸成、脆弱な人々に配慮した交通機関の整備等、幾つかの重要なポイントを明確にすることができた。

■ セッション2 (東岡創示 東京都水道局長)

他都市との協力の重要性について言及したい。水資源は気候変動に大きく影響される。だからこそ、今回、C40 の都市が貴重な情報を共有し、適応策に関する有意義な議論を行って、共同行動に合意できたことは、非常に有益なことであった。今後、このような都市間



左より、オーツ局長、東岡局長、ニクソン部長

のパートナーシップを一層強化し、全ての都市が協力し合って解決策を探ることが求められていると認識している。

■ セッション3 (アレックス・ニクソン ロンドン市気候変動適応策及び水担当部長)

今後、構築するウェブサイトにて技術情報を掲載し、これをベースに交流を進める一方で、CCI(クリントン気候イニシアティブ)とも議論を進めながら、途上国に対する技術的サポート体制を充実したい。これら技術情報は専門性が高く、C40 都市の相互の協力が欠かせないが、こうした取組の充実・強化に努めていきたい。

■ セッション4 (シンシア・ローゼンツヴァイク NASA ゴダード宇宙科学研究所上級研究員)

食糧問題は、C40 にとっては新しい領域だが、都市に居住する人々にとっては、基本的な問題の一つでもある。セッションでは、非常に広範囲に及ぶ分野が論議の対象となったが、都市地域における食糧供給を始めとした非常に重要な問題を論議することができた。

■ セッション5 (シャーリー・ロドリゲス ロンドン市環境局長)

非常に実りが多く、非常に興味深く、様々な分野を網羅したセッションであった。気候変動に関する多角的な局面からの議論を行うことで、人々の気候変動に関する理解を少しでも促進できたことの意味が大きい。今後、C40 の都市とともに、この共同行動を推し進めるための議論を深めていきたい。



左より、ニクソン部長、
ローゼンツヴァイク博士、ロドリゲス局長

(3) デビット・ミラー C40 議長(トロント市長) あいさつ

はじめに、石原都知事および東京都庁の皆様にお礼を申し上げます。極めて重要な適応策に関する会議を主催して下さいと有難うございます。また代表団の皆様、世界中からお集り下さって有難うございます。東西南北からあらゆる都市が参加して下さい、本当にうれしく思います。

議論と 13 の共同行動提案は非常に明確なメッセージを提示したと思います。まさに私がシンポジウムの冒頭で申し上げたとおり、都市は既に気候変動に対する緩和策についても適応策についても行動を開始している、というメッセージであります。

水に関する行動であったり、デリーの太陽熱の温水や緑化、また我が都市における湖の深層水を用いた冷却やビル改修であったり、シカゴ、東京、シアトル、シンガポール、ロサンゼルス、ソウルなど、素晴らしい行動がとられておりまして、都市は温室効果ガスの排出量を削減するために継続的に行動しているのだということが示されたわけです。

もう一つこの会議の重要なテーマは、気候変動に強力に取り組む続けることの重要性であります。何故ならば、地球上の異なる場所では異なる影響が生じるからです。公衆衛生や難民への影響がある場合もあるし、また、例えばシンガポールは強い台風への対応が課題である一方、他の都市では乾燥化する気候における食糧生産が課題であります。



発言するミラーC40議長

C40 の都市が行っている活動を誇りに思っております。今後 1 年間、我々には非常に重要な機会が訪れます。来年のソウルサミット、そしてコペンハーゲンの COP15 に至るまで、本当に行動すれば本当に変化を起こすことが出来ることを示し続けられれば、世界の議論に影響力を行使するすばらしい機会になると思います。それにより、都市だけでなく全ての国家政府が行動する。皆様の議論がその可能性を大いに高めたと思います。

素晴らしいプレゼンテーションがなされました。会議においては、非常に強力な多くの行動とともに、様々な協働の可能性が示唆されました。C40 の都市としてお互いに行動を続けることによって、COP15 コペンハーゲンの参加者に対し、国レベルでの具体的な活動も必要であるという強い意思表示ができると思います。

あらゆる参加都市の皆様に応えたい。ソウルでの会議に参加して下さい。そしてソウルで、私どもが既に行っている活動について示すことが重要になってきます。C40 の都市が及ぼす将来に対しての影響力を拡大するために重要になってきます。今回の会議に参加して目を覚まさせられたと思います。楽観的になるような現在進行中の事例もありましたが、地球規模で大規模に行動する必要があるのは明らかです。我々の都市を合わせると何億という人口を代表するわけですから。ここで合意された 13 の共同行動を確立すれば、必要な変化をもたらすことができるかもしれません。ニューヨークで合意された建物の改修プログラムも確立していきます。そしてソウルにおいて証明しましょう。私ども実際に行動し、業績を出しているんだということを。

改めて、石原都知事に御礼申し上げたいと思います。また、都の職員の皆様はこの大切な会議に力を注いでくださるよう御指示下さったこと御礼申し上げます。有難うございました。

(4) ソウル・サミット紹介

(クウォン・ヒュクソ ソウル市環境保全局長)

第 3 回の C40 ソウル・サミットに、皆様をご招待できることを大変光栄に思います。開催期日は、2009 年 5 月 18 日から 21 日まで、韓国ソウルにて開催されます。皆様と来年ソウルにて再会できることを大変楽しみにしております。

(※この後、ソウル・サミット PR の DVD を上映)



クウォン・ヒュクソ ソウル市環境保全局長

(5) マーティン・パリー博士 あいさつ

30 年間気候変動に携わってきまして、今回程、素晴らしいミーティングに参加したことはありません。それには二つの理由がありますが、まず一つ目から申し上げます。それは、皆様は都市を運営するという実務に携わっているということです。そして現実の問題に直面していて、実際にそれに立ち向かい対処しなければならない。ここで行われていることは、科学、経営、政策、そして行動する必要性の混合であります。私から見ればこれらの作業は応用科学のすばらしい事例だと思います。是非こういった類いの別の会議でも実現してほしいと思います。

二つ目のことですけれども、幾つか会議中に取り上げられた数字をメモしておりました。例えばロンドンの数字ですけれども、改修に要する費用にロンドンの住居の数を掛け、1,000 の都市ということとさらにかけ算してみました。しかし、ロンドンは物価が高いので、その 5 分の 1 くらいにしました。そして、気候変動に都市が適応するのに総額でいくらかかるかを算出し、それを 30 年で割った

ところ、毎年1,000億から2,000億(ポンド)かかるという結果なのです。さらに200万ぐらいの市町村があるということを考えると、おそらく年間0.5兆(ポンド)ぐらいになってしまいます。こんな数字は見たこともないので、もしかしたら全然誤った計算なのかもしれません。ただ適応策の費用の規模感を持つということは必要だと思います。というのはコペンハーゲンで実際に緩和するか適応するかを決断しなくてはならないからです。しかし、彼らはこういう数字は持っていません。一方で、都市の皆様はこういった数字を把握し始めている。本当に落書きのような大雑把な計算でしかないのですけれども。これらの適応策に要する費用にはブレがあります。農業の適応策の費用は入っていませんし、生態系の多様性とか、水道全般とか水理学の数字が全然入っていない、でも何兆という規模になってしまう訳です。こんな数字見たことありません。でも皆様のような実務に携わる方々が適応策の費用を出し始めている。これらの数字はあまりに大きいので、トロント市長がおっしゃった点が極めて重要であります。C40は強力なグループなのですから、今後12ヶ月で、国際交渉に携わっている人達に対して発言して下さい。そして来年のソウルサミットは、コペンハーゲンに出席する交渉担当者に対して強力な声明を出す極めて重要なタイミングとなるでしょう。そこにおいて、適応策に要する費用を減らすためには、排出を削減するための明確かつ迅速な行動をとる必要があることを訴えるのです。そうすれば、そうしないときに比べて都市の負担は少なくなるでしょう。



発言するマーティン・パリー博士

この会議が成功した理由にはもう一つあるのです。それは明白でありまして、主催者とその献身のおかげです。ですから我々を代表して、そして皆様を代表して、日本の主催者の方々に心より御礼を申し上げたいと思います。すばらしい会議を有難うございました。



左より、
吉川局長、レディC40事務局、
オーツ局長、東岡局長、石原知事、
ミラーC40議長、ロドリゲス局長、
ニクソン部長、パリー博士、
ローゼンツヴァイク博士、マリック博士